

第11回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年11月17日(月) 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 図書閲覧室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
副部会長 渡部 雅子
部会員 田中 寛志
工藤 隆行
堀井 貴之 (市庁内検討委員会 部会長)
【総務部次長】
- ◆ 欠席部会員 部会員 山田 正幸
稲葉 一彦
川島 雅司
松本 崇之
成田 育磨
- 事務局 西川原主査、菊地主査、秋田主任
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

◎部会長

今日の部会は、第1節のⅡとⅢについて進めたいと思います。
まずは事務局に説明していただきたいと思います。

◎事務局

今までは協働のまちづくりについての考え方、思いをメインとしていましたので、今日は体系図をご覧いただきご意見を頂きたいと思います。

資料は19ページです。政策として第1節があり、「Ⅰ協働の仕組みの構築」については一度説明させていただき、協働のまちづくりとはということで過去に2、3回協議した経緯があります。

その際に残りのⅡとⅢについては説明していませんでしたので、まずは説明をさせていただいて協議させていただきたいと思います。

まず、「Ⅱまちづくりの推進」の下には「Ⅰ多彩なまちづくり活動の支援」があり、その下に「①まちづくりを担う個人及び団体の育成・支援」、「②コミュニティー活動の支援」があります。

①の下を見てもらうと、市民活動センターのことを言っているのではと想像がつくかと思えます。

ですので、あくまでも団体・個人の役割を明確にしたうえで、支援拠点である市民活動センターを核としたネットワーク化を行いたい。

個々の団体が個で活動することも当然有意義ではありますが、複数の団体が足りない部分を補うことや一緒にやることでより効果を上げるといった横のネットワークは本来市民活動センターが担うべきと言う部分がこちらになります。

②は支援に関するもので、主な事務事業を見るとわかるように、それぞれ広域で行われている団体の事業を助成する意味合いが多く含まれています。

このような活動で多彩なまちづくりを支援していこうという体系図になっています。

次に、「Ⅲ協働のまちづくりを支える情報の公開と共有」の下に「1 情報提供と広聴広報活動の充実」とあります。

市民や団体が活動していくためには、行政の情報を適切に提供することが肝要であるということはまちづくり基本条例にもうたわれておりますので、行政活動の内容を適切に広報し、また意見を吸い上げることも必要ということが①から④に記載されています。

ただし、①行政の情報化推進は電算システムのことに書かれていて、ここは元々ホームページなど情報技術を活用した情報発信もこちらでカバーしていたのですが、今は電算業務処理のことに多く書かれているので、庁内の部会での話し合いでも、ここにあるのは馴染まないという意見が出ましたので、前回協議した第3節の行政活動へ移させていただきます。

これについても庁内での検討状況ですので、やはりこちらにぶら下げるのが適切だということであれば意見を頂きたいと思えます。

次に「②広聴広報活動の推進」ですが、一番わかりやすいのは広報誌の発行です。

それ以外にも、市長や部長職等が各種懇談会やまちづくり会議に積極的に参加する、市民と対話する機会を拡充する、ホームページやメール配信システムの構築、これは登録しておく地域の情報や警報発表が送信されるもので、あとは室蘭民報や道新のような報道機関とも連携しながら適切に情報提供に伝えていこうという部分になります。

続いて「③意見公募（パブリックコメント）制度の推進」ですが、市民の皆さんに影響のあるような条例を制定、改定する場合や、何か計画を作る場合などに、この制度を活用し、各支所やホームページに案を掲載したうえで、意見募集を行っています。

このような取り組みで市民の意見を適切に行政運営に反映していきたいという部分になります。

最後に「④まちづくり活動団体における情報発信と共有」ですが、それぞれまちづくり活動をされている団体はそれぞれ情報発信をされていると思いますが、どうしても限界があったり、どうしたらいいかわからないという意見も伺っていることから、市民活動センターの掲示板などを活用して行きます。

先ほどもお伝えしたとおり、団体間の横の連携が重要になっていきますので、市民団体が、こういう活動をしていて、こういう方を募集しているようなものを、市民活動センター

にファイルを用意して、他の団体等が調べられるようになっていきます。

最初に説明したⅠは「協働のまちづくりとは」と言う部分を記載しているが、それを下支えする意味でどのようなことをしていけばいいのかということがⅡとⅢに記載されています。

先ほど電算処理については伝えましたが、庁内部会の流れとしてはⅡ－１－②を①に統合してわかりやすくしたり、第２期基本計画の頃は広聴広報と言っているが、今は広報広聴と言っているので文言整理をしたりしていますが、大きな変更はしていません。

事務局としては以上になります。

◎部会長

市民活動センターがここの一つのポイントなのだろうが、私も立ち上げる前の検討委員会のころからいろいろと参画をしていて、その時とイメージと実際に出来上がって、今あるものはどうなのかというのは、ちょっとずれているというか、いまいち違うのではないかと感じる。

色々な団体が交流して、ネットワークを展開していくのが望みだが、なかなかそのようにはなっていない。

団体のレベルや性格にもよるのだろうが、ネットワークを作っていこうという段階にはなっていない。

それと、使っている比率からいうとどちらかといえば文化活動が主体で、それが悪いことではなく、文化活動だってそれでネットワークができていけばより広い展開が図られていくが、そのエリアごとの活動に終わっているのではないかと思う。

そこまで行っているわけではないが、行って展示物を見てもみると、今までは市民会館のみだったが、センターで市民に見てもらおうというのもいいことだが、それだけで終わっている。

その枠を乗り越えるところにはまだっていない。

◎市庁内部会部会長

今の話で言うと、場としての活動センターと、単なる会館で終わってはいけない。

色々な団体の活動を育んでいくのがセンターの役割なのだろうということですか。

◎部会員

市民活動の立上げに関わった運営委員会から入っていて、要するにどう使うかと言うところで話をしたのだが、市から指定管理者へ移行する段階での話し合いとして、物件管理、部屋貸しがメインとして考えられたら困るというのは冒頭に皆で確認したことであった。

結局何が必要かと言うと、市民活動のサポートがメインであって、ここに来るとあらゆる市民活動の情報が一元で管理されて、尚且つその詳細もすぐ確認できる。

だから、何かしたい人がここに来ると、自分の気持ちと照らし合わせながら、やれることと参加できることが見つかり、市民活動と言った繋がりになるだろうという話し合いをした。

何か違うというのは、まだ管理することにウエイトがあって、移ったばかりと言っても何年も経つわけだから、本来の目的である市民へ向けたアプローチが一番の要であって、はっきり言って建物の管理はどうでもいい。

指定管理者になってから、利用率が落ちている、その原因の掘り起こしをしないと、落ちたまま横ばいで、更に左下がりになることも危惧される。

◎市庁内部会部会長

委託してある時点で話してあることなのだろうが、他の指定管理を見ても管理が主だと勘違いしている部分もあって、春からかなり議論をして大分理解していただいていると思う。

今後期待しなければいけない部分ではある。

◎副部会長

今の問題で言えば、私たちの例会も市民活動センターで行っているが、場として便利で、掲示物で他の活動がわかるのはいいと思う

登別の色々な市民団体が縦線のまま動いているのかなという感じは受ける。

運営を維持する以上、やはり一定の収入がなければいけないのだから、それを大事にすればいいと思う。

同時に、横の連携ができるような、繋がりができるような仕組みというか働きかけ、事業というものをやっていかないといけない。

事務局から話のあった行政の情報化推進を第三節に移すのは賛成で、このところは我々で論議をしてもここには馴染まないと感じる。

コミュニティー活動の支援の主な事務事業に書かれているものは広域的なものが中心で、本来はこれだけではない。

◎事務局

この欄については、主な事業を記載しています。

◎副部会長

それはわかるが、これだけかなと。

◎市庁内部会部会長

コミュニティーという言葉の狭い意味を考えるとこうなる、広く見ればもっとある。

◎副部長

この計画だけを見たら、ここを中心に考えているのかなと考える。

◎事務局

他の施策に関する内容で、例えば男女共同参画などは男女共同が別の章にあるのでこちらに含まれています。

広い意味でのものがここに残りますので、具体的な施策、政策を目的とする団体についてはそれぞれに含まれることとなります。

◎副部長

総合計画ができあがって市民が見た時に、これだけだと思われるのはどうかと思う。

◎市庁内部会部会長

総合計画だから、これは全部で全体。

ですので、柱をここに載せているだけで、細かい部分はそれぞれになる。

◎事務局

特にここはそうなのですが、主な事業から見始めるとそういう見方になるかもしれません。

◎副部長

市民はここに目が行くのではないか。

◎事務局

皆さんと協議をするときに体系図の本文だけを見ても何をしているかわかりにくいと考えましたので、全ての事業ではありませんが代表的なものを記載させていただきました。

思いとしてはコミュニティ活動を支援していくということに重きがあって、大補油的な事業としてこの事業がぶら下がっています。

◎部会員

繋がり方というか、市民活動センターを各団体が共同利用しているのであれば、その場で交流を深められるような事業を行うべき。

冊子があるだけでなく、フェイストゥフェイスで情報交換できるようなものが一つもあれば、もっと横のつながりを深められるのかなと思う。

そのあたりの含みがあればいい。

◎副部長

この間、何か事業を行ったらしいが、それは運営委員会が中心となったのでしょうか。

◎事務局

市民活動交流フェスタのことかなと思いますが、指定管理者の事業として実施しております。周知の仕方が悪いのか、ひろがり薄いかなと感じています。

他施設に指定管理者は施設を管理するだけで、このような性質の施設は初めてとなります。

行政が担っている業務内容を包括する仕様書で、選考についても値段勝負ではなく市民に公開した中で提案コンペを行い、結果としては3団体がプレゼンを行い、大学の先生や民間の方も参加した中で評価を行い決まった経緯がある。

皆さんがおっしゃる通り、中間支援団体というNPOですと、連携や補助金の獲得の仕方、NPO設立の方法などを支援するのを主たる目的としていますが、当市にはそういった団体がない中で、そういうところを勉強しながら運営してくれてはいるようだ。

◎副部長

確かに、こういう制度があるなどの通知はいただいたことがある。

◎市庁内部会部会長

今までの話を聞いていると、団体にしかけていくようなリーダーシップがいる。

ただ管理だけ、事業をやるだけではなくて、東ねたり起爆剤となるようなリーダーシップがいる。

◎副部長

事業計画などでも努力をしているとは感じる。

◎市庁内部会部会長

ただ、ハードルは高い。

◎部会員

やろうとしていることのベクトルが違う、管理することに終始している。

本来の目的は何かと言うことを考えてほしい。

◎事務局

指定管理期間は5年間なので、今が2年目でそろそろ方向性と言うか、なんらかのポリシーが必要な時期に来ていると思う。

◎市庁内部会部会長

委員会で話し合っただけで大分理解してきていると思う。

◎部会員

登録団体の紹介も、市民活動センターのスタッフとして出かけてインタビューなどして、紹介をネットに載せたり、地道な活動をする。

あるいは市バスを使うなどしてサークルを巡れるイベントもあれば紹介した方もされる方も違って来る、活気が出てくる。

ただ文言だけだと見る人は見るかもしれないが見ない人の方が多い。

そのあたり仕掛けるのは人だから、人と言う要素にすべてかかってくる。

◎部会長

思うに、モモンガクラブがかなり長い年月をかけて実績を積み、一つの成功例だと思う。

同じNPO法人でなぜかと考えると、そこにサポートするボランティアの基盤が徐々に大きくなって、当初はいつも同じ人ばかりだと言っていたが、最近違ってきていて、そのサポートの力でうまくすごいパワーを発揮している。

障がい者が集まる場に参加したことがあるが、どう接したらいいかわからない中で川遊びなどをサポートした経験があるが、それを上手にスタッフがリードしている。

それを周りも認めている。

◎市庁内部会部会長

現在、団体間のコラボはあるのか。

ここから生まれる可能性はどうか。

◎部会員

モモンガクラブは巻き込み力がすごい、他の参加者が知らず知らずのうちにボランティアに入っていたり、ボランティアが企画したりというのがすごくうまい。

家族で参加したが何かしら引き込まれてという事例もある。

なぜかと思うと、団体として強みはあるけれどもどうしても弱みもある。

自分たちも単年度制で継続できないというところがあって、モモンガクラブのノウハウをもらいたいと共同事業を行った。

自分も登別でやりたいと協力させていただきながら、子育て広場の中の施設で、土曜日にフレンズパークという公園利用の仕方を、他の団体と一緒にやろうというので、自分たちの委員会で参画させていただいて、一年間行った。

その中でノウハウをもらったり、青年会議所は先輩から脈々と受け継がれてきた伝統があるので、行政と掛け合えたりする。

そのようなストロングポイントを活かしてやっていこうというのが、先輩によっては他の団体と行ふなんて、自分たちでやれと言われるが、そのような時代ではないと思っている。

そういうノウハウを補完できるもの、協力し合えるものを模索して行っている。

◎事務局

コーディネーターのようなものがいたらいいというのが市民活動センターであり、今回の指定管理は民間の活力でということではあった。

市で運営していたころは、個室で行っているものでも中に入ってきて見たりしていた。

もしかしたら嫌だった団体もあるかもしれませんが、そうやって世間話をしたり、困っていることがあったら他の団体を紹介したり、そういうことも模索していた。

行政としてやるべきことは、人材育成なのか、直営に戻して行政がコーディネーターを担うべきなのか。

できれば民間でやるべきだと考えて指定管理に移行はしているが、どう考えますか。

◎副部長

まだ1年で判断はできない。

◎事務局

最初からこういうことを志して設置されたNPOではないというのも当然あるとは思いますが。

◎市庁内部会部会長

今、話し合いをしているから、様子を見ないと結論は出ない。

話は変わるが、基本条例の関係が議会で出ました。

自治推進委員会を置かないのは条例違反ではないか。

このまちの憲法である条例の活動の根幹の部分でありながら、会が休止しているということで、今までの反省を踏まえて、きっかけづくりと言うこともありますので、皆さんから提言頂きたい。

◎部会員

2年ぐらい経つが、最後にはバラバラになってしまっていて、続けていく意味がないので一度白紙にしようということで解散した。

総会を開くにあたって役員会を開いて意思統一をしても、総会で反故にする意見を出す。

そういうルールも守れないなら限界だと、いったん行政にお返しして、仕切りなおして始めようとなった。

◎市庁内部会部会長

駄目になったというわけではなくて、時期を見てやらなければならないということによるらしいですね。

◎部会員

結局は人選が大事、まったく不慣れな新人を引っ張ってきて、一から勉強しますという人とベテランでは一緒にやっても結論は出ない。

少数精鋭でいいのではと感じた。

◎市庁内部会部会長

今回は行政が一步引いて行った。

そのあり方についてはどう思うか。

◎部会員

むしろ行政も入るべきだと思っていた。

今までこういう形はなかったので、こういうこの部会のような会議態を持てたということとは、自治推進委員会も無駄でなかったという思いもある。

こういう形が本来だと思うし、これに議員も入れればそれで市民自治はできる。

行政がいて、市民がいて、議員がいて、その三者でまちづくりの話ができれば、それで同意が見られればまちづくりはできるという話をした。

そのためにはそれぞれの役割分担を明らかにして、お互い何をするのか、できないことは協力しましょうという形ができていくと思う。

そこから始めていったがそうではなかった。

最初の会議が終わって、次のステップへと思ったら、二回目はまた最初からの話になってしまって、なかなか進まなかったというのもある。

◎市庁内部会部会長

行政も引かないで、ある程度それぞれの立場で話せばいい。

◎部会員

市の職員である前に市民ではないか。

◎副部会長

職員もどんなまちづくりがしたいか語ればいい。

◎部会員

役職をはずして、一つのテーブルでこのまちをどうするか話し合えばいい。それはそんなに難しい話ではないと思う。

それを議員に聞いたら、そういうところに出るべきではないと言う方もいる。

◎部会員

立場がそれぞれだからとテーブルにすら着いてくれないまちもある。

そういうところに行政がついて話をすることで、発言に責任が生まれるではないが、こういう部会の中で行政を交えて話をして方向性を導いていくのは大賛成。

他のまちに自慢したいし、そういう形が、条例に関しても望ましいと思うし、行政も一緒にお互い責任を負ってやっていくことが大事。

◎部会員

出た言葉の言質を取るとか、責任追求ではなく、市民の一人としてどうしようかという話をする。

そういう暗黙のルールを理解できない人をテーブルに載せてはいけない。

そういう意味では人選が大事だと思う。

◎部会長

自治推進委員会のことと言えば、元々公募で、スタートの時にかなりの数の人が集まった。それは自らで地方自治について何かしたいという思いだった。

ただ、運営の仕方のまずさもあったので結果的に崩壊してしまったのだろうが、そう思っている人はいる。

そういう人をどうやって話し合いのテーブルに乗せるかという手法がまずかったと思う。

それだけの市民がいるという力は大事にしなければいけない。

◎市庁内部会部会長

人間ですので色々な考え方があって、それをテーブルにと言うのは何が足りなかったのか。

◎部会長

行政が引いたところに原因があったのでは。

◎市庁内部会部会長

束ねるのは行政なのか。

◎部会員

行政でなくてもいい。

テーブルを作るのが市民自治の一番のゴールだと思っている。

そこでフラットな形でまちづくりの話し合いをして、それが議会のテーマとなり、まちづくりの指針となっていくということが一番の理想。

役所は市民の声を聴いていないと言われるけど、胸を張って、市民会議を重ねた結果だと市民に対して言える。議員も市民の声を聴いたことになる。

◎市庁内部会部会長

なぜ今までこうならなかったのか。

◎部会員

互いの権益守りが原因ではないか。

◎副部会長

最初の頃にも言ったが、議員を入れる。それを望んでいる議員もいると思う。

一方で議会で論議するわけだから、そういう場に出るのは望ましくないという人もいる。何でもそうだけど、約束事を守る。

それぞれの立場はあるが、こういった場はそれを除いて一市民として話し合おうという、そういうものを作り上げていけば、それが本当の協働だと思う。

◎市庁内部会部会長

作り上げていくためには、信頼関係がいる。

◎部会員

信頼関係を築くためには協働の事業と言うか、お互いが汗をかいてというのが大事だった。

一度、洞爺湖サミットの時行った事業で行政も一生懸命やってくれて、汗をかく姿をお互い見合うから、百あるうち十しか言わなくても残りの部分は理解できる、そういう関係性ができるのだから、そういう接点の積み重ねで最終的にテーブルができれば、それでまちづくりはできる。

◎市庁内部会部会長

振り返ると、まちづくりはそれぞれに思っている。

うまくいく場合とそうでない場合があって、信頼関係があって、でも仲良しこよしではない。

◎部会員

仲良しクラブではいけない、やはりお互いぎりぎりの部分で話し合うと、仕方がないという気持ちにもなる。

それがないと、行政は何をやっているという話ばかりになる。

◎市庁内部会部会長

そうすると、2年間休止しているが、立ち上げるタイミングは何時か。

◎部会長

それはこの基本計画が終わった来年度の頭ぐらいから立ち上げるべく動くべきではないか。

◎副部会長

各部会がそういう論議をしていて、私の団体では互いの部会の情報交換を例会ごとに行っている。

どういことが足りないか、まちづくりにはもっとこういうことが必要だということを提案しようなどという視点です。

自分たちのまちだから、自分たちが積極的に動けることは動こうということだから、そういう点で言うと来年度がいいチャンスだと思う。

◎部会員

いいまちつくろうというそれだけ。

単純なことで、そこでお互い一市民として参加して、結果として持っている立場が行政だった、市民だった、議員だったでいい。

できるできないを話していく中で、行政だから予算の具体的な数値を言えますとか、議員だから議会の進捗はこういう状況ですという情報が出れば、より会議が厚く肉付けされて、実現性の高い話し合いに近づいていける。

それだけの話で、そんなに難しいことをやろうとっているわけではない。

◎副部会長

ボランティアで行うのがいい。これをお金をもらってやっていたら違う。

◎市庁内部会部会長

あとは手段ですね。

周知する方法、この活動を広報などお知らせして、空気というか、信頼関係やまちづくりに対する思いなどを広げていかなければならない。

今度は行政として周知活動をどうやったらいいかと言う部分があるし、ちゃんと見えるように、決められたことを信頼を持って市民に示して、行政が勝手に進めているのではない、アライバイ作りではない、お互いに意見を聞くという形でパブリックコメント制度で見えるようにする。

◎副部長

パブリックコメントの問題で言えば、これまでも市民に意見を求めてきているが、どのくらいの割合で来ているのか。

◎事務局

事務事業評価と言いまして、行政のの事業を内部点検し、事業の改善、廃止等をする仕組みがありまして、これだと意見を出しやすいというものもあるのかも知れませんが、今年で9件、去年は30件程度だったと思います。

反面、条例制定など専門的なものになると、残念ながら意見がないこともあります。

そもそも意見がないのか、取っ付きにくいのか。

ただ、意見を言える機会が大切だと思っているので、当然やめるつもりはありません。

時々、周知の仕方が悪い、わざわざ支所に行って意見など書けないという意見もいただくこともあります。メールでも受け付けていますし、手紙やFAXでもいいです。

ただし自分の名前を明らかにする必要はある。そういった形で行っているの、改善するのであれば、どのような手法があるのかなと思っています。

◎副部長

高齢化が進む中で、メールが主体で本当にいいのか。

パソコンを使って作業ができる人口はいるのだろうが、本当に出したいと思ってもどうしていいかわからない、広報にも載るが、意見をくれる方と言うのは、一定の経験がないと、なかなか一般の市民は難しいと思う。

◎市庁内部会部会長

情報公開とかパブリックコメントと言うのが、意見の数よりも市民の言う場の確保、問題があった時に言える場を確保することに意味があって、たくさん来たからいいということではない。

ただ、関心を持ってもらうためには、意見を出さないまでも見てもらえているか、逆に言えば見ってもらうことで安心できるということもある。

例えば行政がおかしいとなった時に情報公開されていれば、市民の方から目に入っているから、行政の職員も正しい仕事ができる。

そういった部分で、公平性を保つ意味ですごくいい制度である。

◎副部長

制度としては絶対に無くせないものだし、今の時代、これがなければ情報公開にはならない。

◎市庁内部会部会長

どうしてもまだまだ制度自体の認知度が低いのかもしれない。

◎副部長

市の側が問題だというだけではなくて、そのことの周知を気付いた市民が、周りの市民に広めることも必要なかと思う。

◎部会員

パブリックコメントに関して、本来、民意を市政に反映させるという意味において、議会制民主主義というものがあって、議員が市民の代表として認められているのだから、94町内会を強制的に割り振って、その町会の声を吸い上げてほしい。

そのことによって議員が市民の声を聴いたことになるし、議会で反映すればパブリックコメントそのものだと思う。

パブリックコメントと言えば格好良いが、どこまでがパブリックコメントでどこまでがクレームなのか、グレーゾーンのものはどうするというのがあるが、そのあたりを詰めていかないといけない。

それを本来は町会の代表として議員がやるべき。

◎市庁内部会部会長

どこのまちでも議員はすべての意見を代表できるほど把握はできない部分がある。

それを担うような制度ができて、議員だけに任せられない部分もある。

◎事務局

他には地区課題といって、広聴の範囲になるのだが、単位町内会の意見を伺う機会と言うのが5～6月にある。

自宅の家の前のアスファルトが剥がれているなどの細かな意見を聴く機会となっている。皆さんご存知の地区懇談会もあります。

パブリックコメントは市が決めるもの、こういうことをやりますというものに対する意見を聞く。

あとは意見箱もありますで、こちらにも年に数件意見がある。

できるだけ市民の意見を吸い上げたいという思いは様々な手法でやっている中で、パブリックコメント制度、これは政策に限りなく近いところの意見を聞けるという特徴がある

のかなと思います。

◎市庁内部会部会長

今、手法として色々な媒体が出てきて、フェイスブックなど色々なことを行っているが、そのあたりのあり方として、今後こうしたほうがいいのか。

◎事務局

先ほどのパソコンの話で言うと、パソコン世代もどンドン年を取っているので、アンケートで見ると60歳ぐらいまでは使えるようになってきているように感じます。

これからも紙には敵わないがウエイトは大きくなっていくのかなと思っている。

◎部会員

特にSNSが広がってきているので、これからの時代を考えると、先駆けて取り入れていくのはいい。

新たなる方針としては、スマートフォンが普及しているので、反応はダイレクトに来るので、その反応を見るだけでもという考えでいったほうがいいのかなど。

◎市庁内部会部会長

F a c e b o o kでいうと、いつごろから使っているのか。

◎事務局

もう一年ぐらいになるが、現状は発信だけです。

意見は書けるが基本的にはお答えしていません。

今は市内のイベントなどを主に発信しているので、いいねボタンを押してもらえれば情報が届くことになります。

◎部会員

F a c e b o o kは短絡的で、もっものを考えてから発言したらどうかと言う気持ちもある。

手軽、安易すぎるのもどうか、イベントを行っているわけではないので、スピーディさはいらないと思う。

もっと一歩引いて考えてもらって、全体像を見ながらこの部分はどうかとか、そういう意見の方がずっと生きてくると思う。

◎事務局

市のホームページの下にもいいねボタンがある、それを押してもらおうと自分の友達に周

知できるので、宣伝になります。是非お願いしたい。

メディアとしては使い方次第と感じている。

◎市庁内部会部会長

一長一短と言いながら、新しいメディアは絶えず勉強する必要はある。

行政で決定したことばかりをお知らせして、いかにも組織決定したような文章は面白くない。

でも個人では柔らかくなりすぎている。

そのあたりで親しみを持ってもらえるように苦労している。

◎副部会長

昔から見ればすごく良くなったと思う。

◎事務局

結局「まちづくりとは」という部分だけが、皆さんの中で統一は難しいですね。

◎副部会長

まちづくりとはというのは難しいから、やはり市民と行政と議会が一緒になって、対等な関係で話し合うのがいい。

◎事務局

信頼関係が必要で、お話を聞いているとそうはいつでもリーダーシップはどこかに必要で、行政としては我々はそのリーダーシップ発揮するのかというと疑問もあります。

人材育成については、協働のまちづくりセミナーなどは行っているが、即効薬ではなく漢方薬で時間のかかるところではあるが、徐々に定着させていくのが必要なかと思う。

◎市庁内部会部会長

時間がかかって当たり前で、地方自治の永遠の課題だから、これは永遠にこつこつとやり続けなければならない。

◎事務局

自治推進委員会については来年度立ち上げるという思いをいただいているのですか。

◎市庁内部会部会長

これを逃したら次は無い。

◎事務局

提言書の文言については、皆さんの思いを記載することになりますが、今までの議事録を精査して、国際交流で言えば将来への投資や人材育成など、キーワードが何点か出ているので、それを次回の部会で示して、全体を眺めていくということを行いたい。

◎副部会長

姉妹都市の件で少しだけ載っているが、海老名市も動き始めていて、そのあたりのところはどうか。

◎事務局

庁内で揉んだ中では、白石市とは今の考え方を入れたうえで、海老名市も併記するような形で対応しようと考えている。

◎副部会長

そういう動きがされているので、来年になったら締結しているかもしれない。

◎事務局

仮に姉妹都市締結をしたとすれば、トライアングル交流というのが無くなるかもしれない。

若しくは行うこと自体が白石市と同じとすることであれば、白石市及び海老名市などと統合してもいいと思う。

◎副部会長

相手のあることだから。

◎市庁内部会部会長

その辺がある程度あるかもしれない。

皆さんの提言を事務局でまとめてもらって、次回もう一度見てもらう。そこで薄い部分を足していく。

◎事務局

今までお話した中で、情勢が変わりそうなのが姉妹都市ぐらいかなと思います。

国際交流も急に一市増えたりなどは無いですし、定住自立圏もすぐに何かが変わることは無いと思います。

今話題となったの姉妹都市と同じように、取組みが変わる事業があるかもしれません。

この基本計画は議会に提案しますので、予定で言いますと議会の制定はちょうど一年後、

来年の12月の定例会で提言して、再来年の1月から3月にかけて本にして、4月から実施となる。

今、皆さんで行っている体系図の調整というのは、今年中にある程度振り返りしていただいて、3月ぐらいまでには提言を頂こうと思ってます。

確実なスケジュールではないが、この基本計画も、来年の春、4月か5月に中身を整理して、パブリックコメントを行います。

◎市庁内部会部会長

3月までが提言まとめで、行政とぶつけて調整して12月議会となる。

◎事務局

たぶん、施策ごとなくなるものはないと思う。

◎市庁内部会部会長

市民も体系図に対して思い違いをする部分があるので、何かしらの意見は出てくると思う。

それでは、今回は12月18日を基本線で開催を調整させていただきます。お疲れ様でした。

◎部会長

お疲れ様でした。